

サッカーにおけるデータ化と科学技術の進化

Evolution of technology and data reduction in football

1K10C999 石川 絢太

主査 石井昌幸先生

副査 武藤泰明先生

【目的】

科学技術の進化により、世界はあらゆる物が進化してきた。人々の生活が便利になり、欲しいものはいつでも手に入るし、観たいものはいつでも観ることができる。白黒だったテレビはカラーになり、3D の技術によってより臨場感のある映像を楽しむことができるようになった。科学技術の進化がスポーツ界にとっても大きな影響を及ぼしていることはもちろん言えることである。映像の進化によって、昔はスタジアムでしか観ることのできなかったスポーツが、今ではテレビを通して自宅で家族と団欒しながら観ることができる。その中でも、現在のスポーツ界が昔のスポーツ界と何が大きく違うのかを考えた時、一番最初に思い浮かんだものが、道具の進化であった。科学の急激な発展により、スポーツはより洗練されたものへと発展を遂げ、観る者を魅了し続けてきた。選手の着用するユニフォームは動きやすく、汗を吸収しやすいものへ。スパイクはあらゆるシーンに対応することのできる設計が確立され、足への負担が圧倒的に軽減された。本研究の目的は、このアディダス・ナイキの 2 大ブランドがどのような形でスポーツの進化、特にサッカー界の進化に影響を与えてきたのか、そしてサッカー界における科学技術はどこまで進化しどのようにサッカーという競技に影響を与えているのかを研究したものである。

【方法】

調査方法として、まずは W 杯と EURO、欧州 CL で上位まで進出したチームがどのブランドとスポンサー契約を結んでいたのかを調査した。サッカー雑誌や WEB の情報を精査しリスト化することで、どの年代から 2 大ブランドの影響力が増大していったのかを知ることができる。そして、科学技術がサッカーのどのように関わってきたのかを調べるためにワールドサッカーダイジェストを創刊号からチェックし、サッカーのデータ化の記載や記事の変化を読み取り、他のスポーツとの関係性から科学の進化の詳細をまとめた。最後に、2 大ブランドがサッカーの道具に科学技術を組み込み始めた歴史をまとめた。歴代 W 杯の平均得点と化学技術との関わりを示すことで、いかに化学がサッカーに影響を与えているのかを確認した。

【結果】

第 1 章ではサッカー界の主要大会でのスポンサー契約数は、やはりアディダスとナイキが圧倒的だった。今回の調査対象は W 杯・EURO・欧州 CL だったが、その全ての大会で多くのチームから支持を得ていた。その反面。スポンサーとし抱える問題もあった。

第 2 章ではワールドサッカーダイジェストからみるデータ化の流れの中で、マネーボールとつながる記事を見つけた。2004 年以降、サッカーをデータ化した記事が増え、年が経つにつれ詳細になっていくことが確認された。実際の試合でのデータ測定技術についても調査することができた。

第 3 章では、歴代 W 杯平均得点数の変化から、サッカーシューズ・サッカーボールの進化を調査した。アディダス・ナイキのサッカーシューズの化学技術による進化、そのシューズの登場で平均得点が増加したというデータを見つけることができた。

【考察】

発展を遂げたテクノロジーと、強力なスポンサーによってフットボール界に大きな変化をもたらしている。アディダス・ナイキの新たな技術によって選手から直接プレーデータを得ることができるシステムを構築し、ソフトによって試合全体のデータを分析することができる。そしてその中で、各メーカーが最新技術を駆使したシューズがよりファンタスティックなフットボールの世界を演出している。この流れはフットボール界、スポーツ界にとって非常に大きな変化であり歓迎することだろう。

研究を通して一番感じたことは、データ化が進むにつれてスポーツがつまらないものになってしまうのか。ということである。しかしその答えは近年リーグ・エスパニョーラで異次元の得点王争いをしている C・ロナウドとメッシを見れば、ノーであることに誰しもが気付くだろう。データの進化と共に選手も進化している。むしろデータによって叩き出された「数字」が選手の進化を助長しているのか。この先もスポーツのデータ化が進んでいくことは安易に想像できるが、スポーツがどれほどまでに進化していくのかは想像できない。スポンサーと選手、クラブの関係が洗練されていくことがサッカーの進歩につながることは間違いないからだ。